



場所や時間の制約から解き放つ クラウドを効果的に活用して、教員の働き方をアップデート

「文部科学省により、学校における働き方改革や校務環境のフルクラウド化が方針として示されるなど、教員の働き方にも変化が求められています。1人1台環境が児童生徒の学びを変えつつある今、教員も Chromebook と Google Workspace for Education (以下、Google Workspace) を活用することで、場所や時間に縛られず、セキュリティも安全な環境下で働くことができます。そうすることで、より多くの時間を児童生徒と向き合う時間に使うことができます。しかし、クラウドを効果的に活用するには、単にアナログで行っていた作業をデジタル化するだけではなく、仕事のフローの見直し、働き方のアップデートも必要になってきます」と山梨大学の三井一希氏、東北大学大学院の堀田龍也氏はいます。その具体的な方法やポイントについて伺いました。



実践1 Practice

Google フォームの活用で、教員と保護者双方の時間に余裕が生まれた

「何度も行う業務は、わずかな効率化でも、繰り返すうちに大きな効果を実感できます」と話すのは、山梨大学の三井一希氏。「ある学校では、保護者アンケートに Google フォームを活用し始めました。子どもを通じてアンケート用紙を配布・回収し、手作業で集計する工程が、クラウド上で完結。保護者に直接配信でき、回答も自動で集計されます。また、別の学校では、子どもが欠席する際の当日連絡を、電話からフォームに移行。回答は

Google スプレッドシートにまとめられ、担任や養護教諭が見られるようになっています。いずれの学校でも手作業から解放され、保護者からの電話対応、未提出者への確認連絡も不要となり、教員の労力は大幅に減りました。集計結果はリアルタイムにどこからでも確認できるため、必ずしも職員室にいる必要はなく、働く場所の自由度も向上。保護者にとっても、自身の端末から通勤中やスキマ時間に回答できるため負担が軽く、好評のようです」



山梨大学 教育学部 准教授
三井一希氏

実践2 Practice

情報の事前共有が、行事練習や教員研修の時間を劇的に減らす

「クラウド上の情報は、いつでもどこでも見ることができ、ため、決まった時間に1か所に集まる手間を減らせます。例年、卒業式の合同練習を6回以上行っていたある学校は、最も時間がかかる動作や歩き方の指導に動画を導入。Google Classroom 上にアップされた過去の卒

業式を撮影した動画を、子どもが事前に視聴することによって、対面での練習は2回に減りました。また、授業方法や救命措置などの教員研修も、各教員が事前に動画を視聴する形式に。当日に説明すべき内容が減り、実践に時間を割けるようになりました」と三井氏はいます。



事前に Classroom 上で教員研修の内容と研修動画を共有

実践のポイント Point

教員本来の仕事に注力するために、まずは小さなことから「やってみる」

クラウド化による教員の働き方改革について、堀田氏は述べます。「小さな工夫の積み重ねが、大きな変化を生みます。できる人が身のまわりの困りごとに対して、少しずつクラウドを活用してみる。そして、興味を持った教員から身のまわりの困りごとに対して、少しずつクラウドを活用してみる。そして、できるようになった教員が他の教員の活用を後押しすることで、改革は確実に進んでいきま

す。教員がより多く向き合うべきなのは、事務作業ではなく子どもであるはず。校務を積極的に『楽』にして、子どもと向き合う時間に振り分けましょう」。三井氏、堀田氏は、先の事例のように、すぐに実践できるクラウドを活用した事例をたくさん集めたハンドブックを作成しました。どこから始めるべきかわからない方も、まずは1つやってみてはいかがでしょうか。



東北大学大学院
情報科学研究科 教授
堀田龍也氏

※2023年4月取材



はじめよう!これからの教員の働き方
Google for Education を活用した校務事例ブック
ハンドブックはこちらからダウンロード
https://goo.gle/tw_1pager

